

Q-0203 騒音や振動のため、住宅近接地での施工は難しいのではないですか？

一般の舗装工事では、アスファルト舗装の場合には、アスファルトフィニシャ、振動ローラ、タイヤローラなどを用いた機械化施工、コンクリート舗装の場合には、コンクリートフィニシャ又はスリップフォームペーパーを用いた機械化施工が行われる。騒音や振動が大きいのは、路盤の整正時と、アスファルト又はコンクリートの舗設時であり、アスファルト舗装とコンクリート舗装に大きな差はない。コンクリート舗装では、工事期間が養生日数分長くなるが、養生期間に大きな騒音や振動が生じることはない。

一方、小規模の舗装工事では、アスファルト舗装の場合には簡易アスファルトフィニシャ、コンクリート舗装の場合には簡易コンクリートフィニシャを用いた機械化施工又は人力施工が行われる。この場合においても、敷きならした後の締固め方法が、アスファルト舗装とコンクリート舗装で異なるが、両者の振動や騒音に大きな差はない。

バス停など、更に小規模な舗装工事では、アスファルト舗装もコンクリート舗装も人力で施工されることが多いので、大きな騒音や振動を生ずることはない。特に、コンクリート舗装では、敷きならし・締固め・表面仕上げの全工程を人力だけで行うことができるので、転圧仕上げが不可欠なアスファルト舗装より、騒音や振動を抑えた施工を行うことも可能である。

住宅近接地では、小規模な舗装工事が多く、コンクリート舗装はアスファルト舗装に比べて、工事による騒音や振動が大きくなるとは言えない。しかし、コンクリート舗装はアスファルト舗装に比べて工事期間が長くなるので、早強セメントの使用など、工期の短縮についての対策を講じなければならない。